

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171500739		
法人名	医療法人社団恵翔会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	〒041-1201 北海道北斗市本町254番2号 (電話) 0138-77-1112		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年4月8日

## 【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	29,000~33,000 円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

### (4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名	
要介護1	3 名	要介護2	4 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	5 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	函館五稜郭病院、山内歯科医院、増田クリニック
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、当地で医療機関を経営する医師であり、当事業所はその医療機関と棟続きに立地している。事業所内は、木目を活かした造りで、天井が高く開放感があり、天窓からの採光により共用空間は明るい。また、調理場内の衛生検査を業者に委託し、細部にわたり抜き打ち調査を実施して、運営者に報告するシステムを構築しており、清潔が保たれているとともに、感染や、食中毒の防止にも取り組んでいる。さらに、管理者は、利用者の写真や特徴等を記入した警察対応用ファイルを作成し、徘徊時等に備えて警察署と連携を図るなど、利用者の安全確保の体制を築いている。利用者は、家庭的環境の中でゆったりと暮らしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された改善課題については、チームで取り組んでおり、一部改善している。しかし、地域との交流、終末期の方針の共有については、今後も引き続き、取り組むことが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットで自己評価の項目ごとに話し合う中で、改善点、反省点等を見出し、チームで検討しながら作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年5回実施している運営推進会議では、事業所の活動、行事、自己評価の報告等を議題にしている。さらに、家族のために、介護保険制度、嚥下障害、老人疑似体験等のテーマを決めて、行政からの参加メンバーが講師となり研修を実施するなど、気軽に話し合える工夫もしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者にはそれぞれ担当の職員がおり、日常の生活の様子は担当職員が家族に手紙で知らせている。また、家族と気軽に話し合える関係をつくっており、意見や苦情を、相談や会話の中からも聞き取り、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民に気軽に声かけをしたり、神社の夏祭りに行くなど、努力している。しかし、積極的な交流を図るまでには至っておらず、今後は、利用者と一緒に地域活動に参加するなど、地域との交流を深めるような取り組みが期待される。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の玄関ホールに、「尚仁（思いやり）」の理念を提示しており、人と人とのふれあいを大切にすることを盛り込んだ理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティング時等に、理念について確認しながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者と職員は、地域とのつきあい方を模索しており、住民への声かけや、近隣の神社の夏祭りに行くなどの取り組みをしている。しかし、町内会に加入しておらず、積極的に地域と交流するまでには至っていない。	○	今後は、地域密着型サービスとしてのあり方等を検討しながら、地域住民と共に地域活動に参加するなどして、積極的に交流を深めることが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットで自己評価の項目ごとに話し合い、改善点、反省点等を抽出し、チームで検討しながら作成している。また、評価の意義についても理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に5回実施している運営推進会議では、事業所の活動、行事、評価を公表して議題にしている。また、参加メンバーが講師となり、介護保険制度、嚥下障害等、家族が知りたいことをテーマに選び、解説等を受けるなど、気軽に話し合える会議になるよう配慮している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と協働して、キャラバンメイトの研修会を実施する予定である。また、「めぐみだより」を総合分庁舎内に置き、閲覧してもらうなどの取り組みも行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、「めぐみだより」を発行し、職員の異動時は紹介記事を載せるほか、行事、外出時の写真を添えて、家族に報告している。また、金銭管理は、立替え方式を採っており、領収書と出納帳のコピーを送付して家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にはそれぞれ担当職員がおり、利用者一人ひとりの暮らしの様子を家族にたよりで知らせている。また、日常的に家族と気軽に話し合える関係づくりをしており、意見、苦情、相談を言い出しやすい環境であるとともに、出された意見等を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットでは、職員を固定化しており、なじみの職員による支援を心がけている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、運営者が講師をしたり、管理衛生等について外部から講師を招くなどして実施している。また、外部研修として、南北海道グループホーム協議会研修、新人研修会等に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や、ケアマネ会議の時に同業者との交流を図っており、相互の事業所の長所を見出したり、意見を参考にして、サービスの質の向上を目指し実践に採り入れている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、職員が本人の自宅を何度も訪問して顔なじみになるよう工夫し、本人と家族が納得してから利用を開始するよう配慮している。また、事業所を体験利用するなどの工夫もしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に家族として、思いやりの心を持ちながら接している。また、利用者は生活の知恵や料理のことなど知識が豊富であり、職員は様々なことを教わっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の状態に合わせて声かけをしたり、行動から汲み取って、希望や意向を把握するよう努めている。また、意向把握等が困難な場合であっても、家族と話し合い、できる限り利用者本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、計画作成担当職員が説明し、ユニットごとに評価や意見を出し合い、さらには家族の要望を採り入れるなど、それぞれの意見が反映されたものとなるように作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに見直しているとともに、状態の変化により随時見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族であっても、年2～3回事業所に宿泊して、利用者と一緒に過ごしている。また、自宅訪問、墓参り、通院など、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に応じ、自由にそれぞれのかかりつけ医へ受診するなど、適切な受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師、家族、管理者等で話し合いを行っている。しかし、終末期についての家族アンケートの結果、医療機関での看取りの希望が多かった経緯があり、事業所での看取り介護の方針の話し合いや共有化、かかりつけ医との話し合い等をするまでには至っていない。	○	今後は、運営者は終末期のあり方について、管理者、職員に指導するとともに、話し合いを重ね、方針を共有することが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録等は、一定の場所に適切に保管している。また、職員の利用者への対応は穏やかで、プライバシーを損ねるような対応はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って、外食、花見、ドライブ等の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて、野菜の皮むきや食器拭き等を、強制することなくできる範囲で職員とともにやっている。また、職員と一緒に食材等の買い物に行く利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目安に入浴の支援をしている。また、入浴を嫌がるなど困難なときは、時間差で声かけをしたり、日を変えるなどの工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テレビの時代劇が利用者に人気があり、楽しみながら観賞している。また、皆で歌を歌ったり、天気の良い日は散歩をするなどの、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出が可能な利用者には、買い物、散歩など、臨機応変に対応している。また、外出が困難な場合も、ウッドデッキに出て外気を感じるなど、工夫している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないが、夜間は防犯のため施錠している。また、本人の希望により居室に鍵をかける利用者もいるが、職員は適切に把握しており、弊害は起こっていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難施設自主チェック表を作成し、毎月初めに事業所内の危険防止の点検をするとともに、避難方法を身につける取り組みをしている。また、夜間想定訓練も実施している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量、毎週の体重測定等を記録している。しかし、栄養のバランスについて、専門職の指導を受けたことがなく、現在管理栄養士と交渉中である。	○	今後は、栄養士等による、献立、栄養のバランス等への専門的な指導を定期的に受けることが期待される。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、明るく清潔感があり、不快な音もない。また、壁には季節感を採り入れた装飾や、笑顔一杯の利用者の写真を飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と家族は、自宅から日用品、家具などを持ち込んでおり、居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。